

10 月 5 日(日) 【ニューデリー2025 世界パラ陸上競技選手権大会 コメント】

◆男子 1500m決勝 (T52 クラス・車いす)

上与那原寛和 (SMBC 日興証券) 銀メダル

「良い感じで走れた。最初から 2 番手グループをおさえて減速して自分のペースでいこうかと思ったが、隣の選手がスピードを上げたので、そこから切り替えて並走して走って、最後は着順狙いのプランがうまくはまった。(大会を振り返って) タイムが少し遅かったのので上げられるように頑張りたいし次につなげられるようにしていきたい」

佐藤友析 (モリサワ) 金メダル

「準備万端でしたが、(直前にタイヤにゴミが付いてそのまま走ることに) 直前で集中が・・・、大会記録を更新できたことは良かった。ゾーンに入ってしまったら大丈夫だが、入る前にトラブルがあると集中が切れてしまうところがあり、そこは今後の課題としてしっかり修正して来年のアジアパラ、次の世界選手権、ロスパラリンピックに備えたいと思う。(大会を振り返って) 400mは大会記録更新までもうすこしで惜しかった。ただ、この世界選手権はまずは勝ってメダルを取ることが重要なのでその最低ラインは達成できたと思う。」



◆男子 100m (T63 クラス・義足) 予選・決勝

近藤 元 (積水化学工業) 7 位

予選コメント

「まあまあで走れたかな。力みもなく普通に走れた。今年は、100mも幅跳びも同じカテゴリーの選手と一緒に競技をすることによって同じ緊張感を持てることができた。その緊張感を持って来年のアジア選手権に臨みたいと思います。筋力アップとスピードを上げることを頑張っていきたい。」

決勝コメント

「12 秒でたかなと思ったが、でなかったですね。良かったレースだと自分では思ったがまだ足りない部分がたくさんあるってことですね。スタートは課題で改善は出来てきたがまだまだ。もっと筋力を上げて義足にも慣れていけばトップ選手を超えることができると思うので頑張ります。」



◆女子 400m (T13 クラス・視覚障がい) 決勝

佐々木真菜 (東邦銀行) 銅メダル

「直前でブラジルの選手が出場しないことを聞いて、これは（メダルを）狙っていくしかない、自分の力を存分に発揮するときだと思って走った。レースプランもポルトガルの選手が速いが、そこに惑わされることなく自分のレースをすることだけ考えました。ラスト 40m くらいのところでいつもパタパタしてしまうので、今日は粘ることができてその部分はできたと思う。最後は、無我夢中で走って、足が動かなくなるのは当たり前なのでその中でどうやって足を動かしていくか、体全部を使って進んでいくことが課題だったのでそこもできたと思う。東京世界陸上でチームメイトの活躍で自分も続こうと思いました。」

